

エ 広報等

- ・平成 25 年度及び平成 26 年度の HIV 検査普及週間に向けたポスターを作成し、掲示した。平成 25 年度には大阪市の検査場所、QR コードを掲載し、平成 26 年度には検査実施日時・検査項目を追加した。
- ・平成 25 年度は結核指定医療機関（医療機関・薬局）100 か所に、平成 26 年度は市民プール 25 か所にポスター掲示を依頼した。
- ・MASH 大阪からは、市民プールのポスターを見たあるいは Twitter で拡散されたということコミュニティ内で聞いたという情報提供があった。
- ・平成 25 年度の検査実施区での「検査を受ける人を対象としたアンケート」では大阪市ホームページ男性 28.6%・女性 29.6%、エイズのはなし男性 13.8%・女性 8.9%、ポスター男性 4.8%・女性 4.6%、HIV 検査相談マップ男性 19.6%・女性 26.7%の既知率であった。【資料 16】
- ・平成 25 年度の chot CAST なんばでの「検査を受ける人を対象としたアンケート」では大阪市ホームページ男性 15.2%・女性 15.0%、エイズのはなし男性 5.0%・女性 4.8%、ポスター男性 4.9%・女性 5.5%、HIV 検査相談マップ男性 36.6%・女性 40.4%であった。【資料 16】

オ 相談【資料 18】

- ・保健福祉センターではエイズ相談件数は平成 20 年以降、毎年減少していたが、平成 25 年度は 5,711 件で平成 24 年度の 4,863 件より、848 件増加した。
- ・平成 25 年度のエイズ専門相談は、定例相談 45 件、告知時 22 件、大阪市立医療機関 75 件であった。平成 26 年度から定例相談を予約せず相談が受けられる体制とした。

【評価】

より MSM が受検し易い時間帯や場所における検査体制の整備が求められている。

ア 各区保健福祉センターの体制整備

- ・受検者数は増加している。
- ・北区の検査時間の変更は、有効であったと考えられる。

イ 委託検査体制の整備

- ・平成 24 年度の検査件数は前年より増加した。
- ・即日検査にした土曜日についても、平成 24 年度より増加している。

ウ キャンペーン検査・相談、イベント検査・相談等の実施

- ・北区、中央区、淀川区、保健所において実施した。
- ・イベント検査で即日検査が実施できる体制ができた。

エ 広報等

- ・ポスターについてはプールでの広報が有効である。
- ・大阪市のホームページの充実や HIV 検査相談マップへの掲載が有効である。

オ 相談

- ・相談件数は減少している。

【今後の計画】

- ・保健福祉センターにおける検査件数の増加のための体制について協議していく。
- ・イベント検査等の実施について検討する。
- ・MSM に向けた検査に関する広報を充実させる。
- ・インターネットを活用した広報を充実させる。

(3) 保健・医療・福祉の連携強化

【実績】

ア 地域での支援システムの構築

- ・平成 25 年度に福祉施設入所事例のカンファレンスを医療機関、施設、保健福祉センター、保健所メンバーで開催した。
- ・大阪市総合医療センター主催の定例カンファレンスに参加し、陽性者の在宅支援に関する意見交換を行った。
 - ・拠点病院と連携し、地域における療養支援ケースがあれば保健所に相談いただくシステムは構築できており、平成 26 年度は地域ケア会議を開催したケースがあった。パートナーからの虐待を受けているケースの処遇検討やコミュニケーション障害を抱えたケースの施設入所に向けた施設への働きかけを行っている。
- ・平成 25 年度にはブロック拠点病院に働きかけ、府・5 市と定例の患者の在宅支援に向けた意見交換会の開催に至った。
- ・ケア付き住宅への入室時のケアを提供するヘルパー等への研修依頼があり職員を派遣した。
- ・内部機能障害に対応している障害者福祉施設の入所に向けた大阪市における現状について説明に出向き、ヒアリングを行った。障害者施設側からは、自立支援の方向にあること、入所希望者が多く待機期間が長いこと、かみつきの外傷を伴うような場面もあり感染が不安であること、医療職の認識が入所に否定的であることを理由に入所が困難であることが語られた。

【評価】

ア 地域での支援システムの構築

- ・施設入所、地域療養支援に向けた拠点病院との連携は充実した。

【今後の計画】

- ・引き続き地域療養支援システム構築に向けて事例を蓄積していく。
- ・入所等にかかる職員への研修を実施する。

(4) 人材育成及び関係団体との連携

【実績】

ア 人材育成

- ・平成 24～26 年度は保健福祉センターの保健師研修では、医師にも参加を呼び掛け、CHARM・MASH 大阪の協力を得ながら、模擬体験を実施した。
- ・結核指定医療機関に対して講習会を実施し、4 回で 390 名（医療機関 283 名・薬局 96 名・その他 11 名）の参加があった。
- ・中学校の保健指導主事の 40％に研修を実施し、年次目標は達成できているが、目標の 50％には至っていない。
- ・障害児・者福祉施設連絡協議会、地域包括支援センター職員への研修会の開催
- ・養護教諭、養護職員を対象とした研修会の開催

イ 関係団体との連携

- ・平成 25 年度には中央区保健福祉センターにおいて区役所保健師とエイズ専門相談員との意見交換会を開催した。
- ・イベント検査の実施にあたっては MASH 大阪の協力を得て周知に取り組んだ。

【評価】

- ・概ね計画どおり実施できたが、継続して研修や意見交換を実施する必要がある。

【今後の計画】

- ・大阪市職員、医療職、福祉職員、教員については、さらに対象者を拡大し、継続的に人材育成に取り組む。
- ・関係機関との連携を強化する。